

第2次 大野南公民館振興計画

～ であい ふれあい 学びあい ～

(活動基本計画 令和2～6年度)



相模原市立大野南公民館

目 次

はじめに	1
大野南公民館振興計画の改定（中間見直し）にあたって	2
公民館の目的と事業	3
1. 大野南公民館の基本理念	4
2. 大野南公民館の活動基本方針	5
3. 活動基本計画（5年間）	6
4. 大野南公民館活動の推進組織	11
5. 館長、職員の役割について	12
6. 年間事業計画の策定、振興計画の評価・変更・見直しについて	12

参 考 資 料

参考1 わたしが考える〇〇事業	16
参考2 評価委員会による事業評価（3年間）	21
参考3 大野南地区の変化と公民館	24
参考4 公民館への期待（皆さんからの声）	28
大野南公民館振興計画改定のあゆみ	32

はじめに

第1次大野南公民館振興計画策定から15年が経過し、この間私たちを取り巻く地域の環境は大きく変化しました。相模原市は政令指定都市になり、市域も大きく、住民人口も増えました。国際化、高齢化、少子化、IT化はさらに進み、政治も、経済も、産業構造も想像できなかった大きな変化が起きています。区政が敷かれ、市全体の状況を南の相模大野地区から見通すことも難しくなってきました。このような環境変化に即して、自分たちのいるこの地域を元気に居心地のいい場所にしていくことが、しいてはまち全体に貢献することになっていくのでしょうか。

この計画は、公民館の活動を通して、私たちの「まち」が置かれている状況や私たちの生活の変化とこれからの「まち」のめざしたい姿について、暮らしの中で大切にしたい「人」や大切にしたい「もの」や「こと」を考えながら話し合った結果です。今回の計画づくりに生かされたご意見ばかりではありませんが、将来きっときらりと光る存在になるご意見が含まれています。記録に残して、見直しのたびに振り返っていきたいと思います。

今回、この計画策定にかかわった委員は、決して多くはありませんでした。また、様々な視点から十分な意見をお出しいただく時間も足りませんでした。しかし、それぞれの委員の皆さんの思いが、ぎゅっとつまっています。今後も、毎年の委員会活動の中で、見直されていく計画です。ご覧になっている市民の皆様のご意見も、ぜひお寄せいただきたいと思います。そして、大野南公民館が、この計画をご覧になっている市民の皆様の手で、いつまでも元気で楽しい集いの場となっていくことを切に願います。

最後に、策定委員の皆さんにはお忙しい中ご協力をいただき、無事計画が完成しましたこと、心から感謝申し上げます。公民館を利用される市民の皆様とともに、これからの大野南公民館が一層の発展を遂げ地域に貢献していくことを願うものです。

2020年3月

相模原市立大野南公民館

館長 中村 洋子

大野南公民館振興計画の改定（中間見直し）にあたって

振興計画は、公民館が地域ごとの個性や特性を生かし、将来像や活動方針、運営組織のあり方などを検討し、住民の主体的な活動の推進を図るために策定するものです。公民館がより豊かに発展するための「公民館活動の設計図」であり、「公民館運営の羅針盤」ともいえます。

現在の「大野南公民館振興計画」は、平成27年3月に策定し、令和6年度末までの計画ですが、活動基本計画が平成31（令和元）年度で終了することから、令和2年度から6年度までの活動基本計画を策定するために、運営協議会、専門委員会のほか、地域の方々も自由に参加できる検討委員会を組織し、8回にわたって検討を重ねてまいりました。

このたびの改定にあたっては、現在の振興計画を基本とし、これまでの3つの基本理念はそのまま継続し、その他のところを社会情勢の変化等、時代に即したものに改定することになりました。

検討委員会では、「地域住民それぞれが公民館の将来を考え、夢を語り合いながら自分たちの公民館のあり方や地域の将来像を描く」をスローガンに検討を重ねてきました。過去5年間に実施した公民館活動の現状分析や課題把握、大野南地区の変化に対して、公民館はどのような活動を行ってきたか、またはどのような活動をすべきだったか、特に、相模大野のシンボルであった伊勢丹相模原店が令和元年9月末に閉店となった影響は大きく、各委員から様々な思いや活発なご意見をいただきました。



これらを踏まえ、今後5年間で取り組みたい事業、取り組むべき事業については、まさに夢を語り合いながらの計画づくりとなり、今後の具体的な事業展開は、事業を担当される専門委員会や実行委員会での検討に委ねるところとなります。

大野南公民館区はこれまでの10年間で著しく変化しており、これからも社会情勢や居住環境等、いろいろな変化が予測されます。この振興計画を一人でも多くの地域の皆様に読んでいただき、ご意見をいただければ幸いです。

公民館の目的と事業

公民館は公共の教育機関であり、社会教育法（以下、「法」という。）の第5章「公民館」に規定されています。そして、実施する事業の目的は、法第20条に以下のよう

第20条 公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

また、この目的を達成するために行う事業については、法第22条に規定されています。

第22条 公民館は、第20条の目的達成のために、おおむね、左の事業を行う。但し、この法律及び他の法令によって禁じられたものは、この限りではない。

- 一 定期講座を開設すること。
- 二 討論会、講習会、講演会、実習会、展示会等を開催すること。
- 三 図書、記録、模型、資料等を備え、その利用を図ること。
- 四 体育、レクリエーション等に関する集会を開催すること。
- 五 各種の団体、機関等の連絡を図ること。
- 六 その施設の住民の集会その他の公共目的に供すること。

以上のように公民館は法によって、しっかり守られているのです。

1. 大野南公民館の基本理念

今後の大野南公民館のあるべき姿を描き、その達成に向けて今後歩んでゆく道しるべとして、地域住民との連携のもとに大野南地区のますますの発展を目指して、大野南公民館の基本理念を次のように定めます。

わたしたちは、**であい・ふれあいを通して**
地域の交流を進めます

大野南公民館は昭和25年の創立以来、さまざまな事業やサークル文化活動などを通じて地域の方々の交流に大きな役割を果たしてきています。学校や自治会、子ども会などの縦割りの関係を横につなぐことができるのは公民館であり、乳幼児や青少年、成人、高齢者世代など世代交流を促進できるのも公民館の大きな特徴です。

そして、今後一層拡大する核家族化、一人暮らし高齢者世帯、高齢者夫婦世帯の増加などが見込まれる中で、全ての人々がいつでも気軽に集うことができる交流拠点の役割が期待されています。

そこで、大野南公民館が、豊かな人間関係をつくるために、**であい・ふれあい**を通じた仲間づくりを促進し、地域住民の交流を進め、連携を深めることを第一の基本理念とします。

わたしたちは、**主体的に学びあい、ともに育ち、**
自らを高め、地域社会に貢献します

公民館は、地域住民の学習活動に資するよう、多様な学習機会の提供に努めてきました。そのような中で、公民館は身近な地域や生活課題の解決に貢献してきており、同時に、自己研鑽・自己実現の場となってきました。

そして、今後も幅広く学習の機会を提供し、地域課題や生活課題等の解決をめざした学習活動を行い、結果として、地域の人材の育成、ひいては一人ひとりが主体となって活躍できる場としての役割が期待されています。

そこで、大野南公民館が中核となって、課題の解決のために、学びを支援し、地域住民相互で教えあい学びあうことによって、よりよい地域づくりに貢献することを第二の基本理念とします。

わたしたちは、**くらしの文化を大切にし、**
心と体の健康づくりを目指します

個と個のつながりが薄れ、地域の情報が伝わりにくくなっている中で、大野南公民館は、くらしの知恵、家庭の味、子育て情報、地域の歴史や文化など、地域社会の一員として大切な生活上の事柄について学び傳承する場となってきました。

そして、日々の生活を心豊かに送るための基本となる、心と体の健康に対する人々の意識もますます高まっています。

そこで、大野南公民館が心豊かな生活作りのための情報収集発信の拠点となり、大切なくらしの文化を次世代に伝えるとともに、地域住民の心身の健康づくりを支援することによって、潤いのあるまちづくりに貢献することを第三の基本理念とします。

2. 大野南公民館の活動基本方針

3つの基本理念を実現し、公民館活動として具体化するための活動基本方針を、それぞれの理念ごとに次のように定めます。

(1) 理念1「わたしたちは、であい・ふれあいを通して、地域の交流を進めます」を具体化するための活動基本方針

- ① 地域の人たちとのであいを大切に、ふれあいを通して豊かな人間関係を作り、地域の連携を深めるための機会の提供に努めます。
- ② 地域住民の交流を図るために、世代間交流や国際交流の場の提供に努めます。
- ③ 地域の人たちが親しくなるために、趣味や運動、親子のふれあいなど、楽しみを通して、仲間作りの場の提供と、だれでも気軽に集える居場所作りに努めます。

(2) 理念2「わたしたちは、主体的に学びあい、ともに育ち、自らを高め、地域社会に貢献します」を具体化するための活動基本方針

- ① 主体的な学びを積極的に支援し、教えあい学びあうことによって、生活課題の解決に貢献するよう努めます。
- ② 一人ひとりが主役になって活躍できる場を提供し、地域の人材の育成に努めます。
- ③ 青少年が主体となって学びあい、ともに育つ場を提供します。
- ④ 各種学校との連携を図り、幅広く学習の機会を提供するなど、地域の身近な諸問題を解決するために学びあう機会を作ります。

(3) 理念3「わたしたちは、くらしの文化を大切にし、心と体の健康づくりを目指します」を具体化するための活動基本方針

- ① くらしの知恵、家庭の味、地域の歴史と文化などを伝承することによって、心豊かに暮らすための文化の形成に努めます。
- ② 子育て世代の学習機会を提供し、心豊かな家庭・家族関係づくりへの支援を行います。
- ③ 体の健康づくりに対する意識の向上に努めるとともに、スポーツや運動などを通し、地域住民の健康づくりの支援に努めます。
- ④ 心の健康を保てるような機会を提供し、誰もがいきいきと暮らすための支援を行います。

3. 活動基本計画（5年間）

3つの基本理念を実現するために、活動基本方針を踏まえたうえで、各事業については次の活動基本計画に基づいて進めていくものとします。

① 各種学級・講座（実行委員会形式で開催する事業）

事業活動	理念	事業年度					評価	問題点	対策
		2	3	4	5	6			
ふれあい学級	1・2	➡					A	お楽しみ会から学習勉強へ重きを置き、地域の人たちへより多くの知恵を伝えていく	テーマを持って取り組む
成人学級	1・2	➡					A	内容が幅広く、中身の濃い内容であるため、焦点が絞れずに受講者が集まりにくかった	テーマを絞って、誰もが参加しやすい工夫を行う
子育てを楽しむ講座	1・3	➡					A	受講者が後輩ママのために、次年度以降に保育委員として貢献する形が望ましい	
若者講座	1・2	➡					B	テーマの抽出と参加者への周知方法が難しい。毎年参加者が少ない	中学生から30代が参加しやすいテーマの検討とSNS等を活用する
小中学生保護者向け講座	2	➡					B	共働きが多く忙しいため、周知方法を検討する	SNS等を活用する

② 文化家庭事業（文化家庭委員会が中心になって開催する事業）

事業活動	理念	事業年度					評価	問題点	対策
		2	3	4	5	6			
文化講座	1・2 3	➡					A	テーマの抽出と講師の選定が難しい	国際交流・古典芸能鑑賞・園芸講座・絵画教室など、若い人に公民館を知ってもらおうきっかけとしたい

事業活動	理念	事業年度					評価	問題点	対策
		2	3	4	5	6			
ベビーとキッズのお楽しみワールド	1	→					A	絵本の読み聞かせだけで1時間は厳しい	他のメニューと組み合わせて実施を検討
文学講座	2		●		●		B	興味がある人が中心で参加となる	数年に一度開催し、サークル化する流れにしたい
相模原を知る講座	2	→					新	相模大野については過去にやってきたが、相模原全体も必要	地域のことを知ることは大切
自分史を学ぶ講座	2					●	新	講座では個々のルーツを調べることができない	なぜ自分が今相模原にいるのか、自分のルーツの調べ方を学ぶ
かんたんクッキング講座	3			●			新	伝統料理や世界の料理なども取り組む必要がある	若者・お父さん向け。そば打ち、パン作り、簡単ランチ料理など

③ 健康体育事業（健康体育委員会が中心になって開催する事業）

事業活動	理念	事業年度					評価	問題点	対策
		2	3	4	5	6			
大野南体育祭	1・3	→					A	自治会の参加が減少している	自由参加種目を増やす
ラジオ体操のつどい	1・3	→					B	参加者は少ないが正しいラジオ体操を覚えることは大切	ファミリーで参加など対象者の拡大を検討
歩き方教室ウォーキング講習会	1・3	→					A	参加者が限られている	さわやかウォークなどの事前講習等として検討
さわやかウォーク	1・3	→					A	行き先を検討する	春と秋に実施
市民健康まつり	1・3	→					A	参加者が少ない	実施内容と周知方法を検討
NEW スポーツファミリーバドミントン	1・3	→					A	練習する場所がない	NEW スポーツは継続実施

事業活動	理念	事業年度					評価	問題点	対策
		2	3	4	5	6			
自治会対抗 スポーツ大会	1・3		→				C	自治会対抗は参加者が集まらない。引き続き検討する	競技種目の検討と自治会連合会に協力を依頼
卓球大会 卓球の日	1・3		→				新	卓球サークルは多くあるが、新しい人が入りにくい	大野南中卓球部等の協力を得て自由に使える日を設定
パラリンピック 競技 ボッチャなど	1・3		→				新	経験者・指導者が少ない	
道具を使わない 筋トレ	1・3	→					新	ニーズはあるが対象者に情報が届きにくい	若者・お父さん向け。市民健康まつりで試験的に実施
護身術	1・3		→				新	指導者がいない。女性のための護身術を実施したい	警察官等の協力を得る
スケート教室	1・3		→				新	過去に実施したことがあるが、ニーズの把握が難しい	スケート協会とのタイアップ

④ 青少年事業（青少年委員会が中心になって開催する事業）


事業活動	理念	事業年度					評価	問題点	対策
		2	3	4	5	6			
きまぐれ 広場	おもしろ 科学教室	2	→				A	中学1年生も参加対象としたい	科学熱が高まっているので継続すべき
	こども 料理教室	2	→				A	アレルギー対応が必要	アレルギー調査を実施する
	夏休み 工作教室	2	→				A	公民館に設備がない	毎年、製作物を変えているので良い
	ネイチャー ゲーム セミの羽化 観察教室 こども自然 体験教室	2	→				A	大人の参加も含めて検討する	自然体験は大切。開催時期、場所を検討する
	チャレンジ 教室 こどもミニ オリンピック	2	→				A	種目を検討	高学年の参加を工夫して継続する。講座名を変更する

事業活動	理念	事業年度					評価	問題点	対策
		2	3	4	5	6			
七夕お楽しみ会	2	→					A	工夫の余地がある	公民館の独自性を出す
クリスマスお楽しみ会	2	→					A	子ども会等どこでもやっている	内容を工夫して検討する
こども社会見学	2	→					A	家族では行けないような場所に行きたい	バスの確保
公民館お泊り会	2	→					新	布団がない	和室で宿泊（夜解散も可）。料理や肝試しなどいろいろな遊びができる
壁画に挑戦	2	→					新	許可が下りるかが課題	女子美術大学生の応援を要請する。伊勢丹跡地工事を活用

⑤ 共催事業・その他

事業活動	理念	事業年度					評価	問題点	対策
		2	3	4	5	6			
公民館まつり	1	→					A	自主的に作り上げるまつりにしていく。より多くの団体の参加・来場者の増加を望む	
クラシックコンサート	1	→					A	ピアノ中心のコンサートが続いている。他のクラシックの開拓が必要	
サタデーキッズルーム	1	→					A	協力団体が固定化しており新規の団体が入ってこない	新設の団体に声をかける
親子・孫で楽しめる科学 大道仮説実験	1・2	→					A	親子だけではなく、3世代での参加を促したい	
常設展示	1	→					A	展示をする団体が同じで少ない	館報などで地域の人に周知する

⑥ 保育事業

事業活動	理念	事業年度					評価	問題点	対策
		2	3	4	5	6			
公民館事業への協力	1						A	保育委員の確保。数年経験者は青少年委員会委員への移行	子育てを楽しむ講座の受講生に声掛け

評価基準

- A…参加者・地域住民への貢献度がとても高く、今後も積極的に実施すべき事業である
- B…実施する上で検討すべき課題はあるが、参加者・地域住民への貢献度は高いので、課題を解決して実施すべき事業である
- C…実施する上で検討すべき課題がかなりある、または参加者・地域住民への貢献度が低いので、事業を見直す必要がある

基本理念

- 1…であい・ふれあいを通して、地域の交流を進めます。
- 2…主体的に学びあい、ともに育ち、自らを高め、地域社会に貢献します。
- 3…くらしの文化を大切に、心と体の健康づくりを目指します。

4. 大野南公民館活動の推進組織

大野南公民館の基本理念を実現し、活動方針を具体化し、活動基本計画を実行するための推進組織を次のように定めます。

(1) 文化家庭委員会

- 文化事業と家庭事業を中心とした事業を企画立案し実施していきます。
- 準備委員会形式で行う各講座については、準備委員会の自主性を大切にし、事業のプログラム等は準備委員会で企画立案し実施していきます。
- 事業の必要性の検討や各事業の実施時期の調整、新規事業の企画立案し実施していきます。
- 各種事業で主体的に公民館活動に関わっているメンバーで委員会を構成していきます。また、広く地域の人材を求めるために委員の公募も実施していきます。

(2) 健康体育委員会

- 健康体育事業を中心とした事業を企画立案し実施していきます。
- 事業全体の企画立案については健康体育委員会全体で検討し決定しますが、各事業の実施については健康体育委員会の事業を「体育事業」と「健康づくり事業」の2種類に分類し、体育事業はスポーツ推進委員、健康づくり事業については健康づくり普及員が中心となって実施し、相互に協力をしていきます。
- 健康体育委員会構成メンバーは、スポーツ推進委員、健康づくり普及員、体育サークルの担当者、公募委員等とします。

(3) 青少年委員会

- 青少年事業を中心とした事業を企画立案し実施していきます。
- 大野南子どもクラブ等他の組織との連携や、主体的な活動のあり方などについては青少年委員会の中で話し合っていきます。
- 青少年委員会構成メンバーは、青少年指導委員、地区子連、ジュニアリーダー、シニアリーダー、公募委員等とします。

(4) 保育委員会

- 地域の子育て支援を目的として、地域の子育て中の保護者が公民館事業に参加をし、公民館の部屋を利用して活動ができるように、公民館保育を実施します。
- 市民健康まつりや大野南体育祭の実行委員会、公民館まつりへの参加など、積極的に公民館事業に協力していきます。
- 保育委員会は、原則として子育て経験があり、公民館活動に理解のある方で構成し、必要に応じて公募を行うなど、常に保育に支障の無い人数の確保に努めます。

5. 館長、職員の役割について

(1) 館長の役割について

館長は、振興計画の実現にあたり、公民館事業全般の助言を行うと同時に、運営協議会を統括する。

(2) 館長代理の役割について

館長代理は、振興計画の実現にあたり、公民館事業全般の指揮・監督を行う。

(3) 職員の役割について

職員は振興計画の実現にあたり、各専門委員会を担当し、専門委員会の開催、会議通知の送付、会議資料の作成、会議報告書の作成を行うほか、事業の企画立案実施にあたり、相談、助言、調整等を行う。

6. 年間事業計画の策定、振興計画の評価・変更・見直しについて

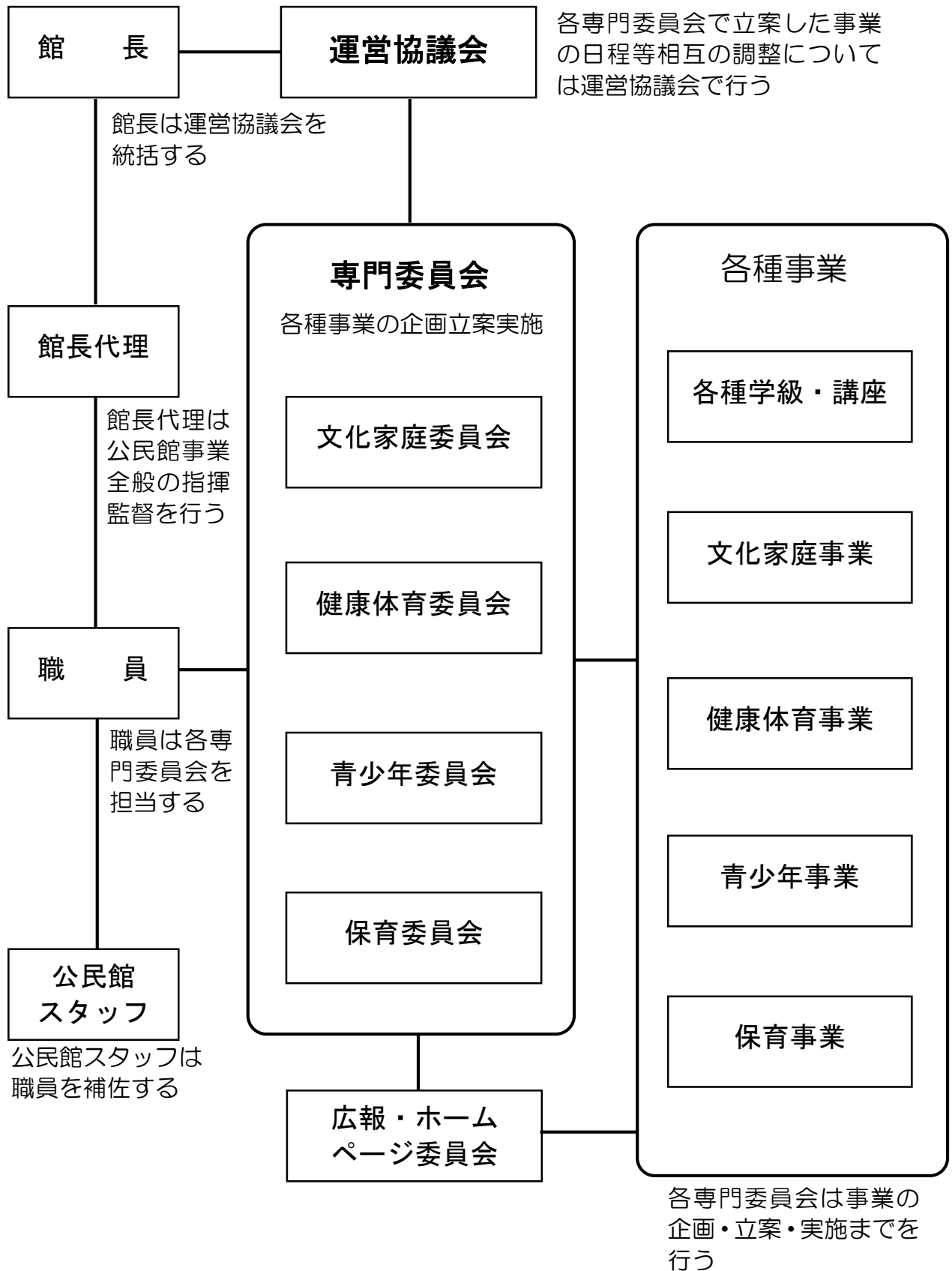
(1) 年間事業計画の策定について

公民館活動推進のための年間事業計画については、「振興計画の理念、基本方針」を踏まえ、「地域の変化に対して必要な公民館活動」及び「地域住民の期待に応えるための公民館活動のありかた」を参考に勘案し、「活動基本計画」を尊重しながら、毎年1月以降に各専門委員会で立案し、3月の運営協議会で調整のうえ策定していくこととします。

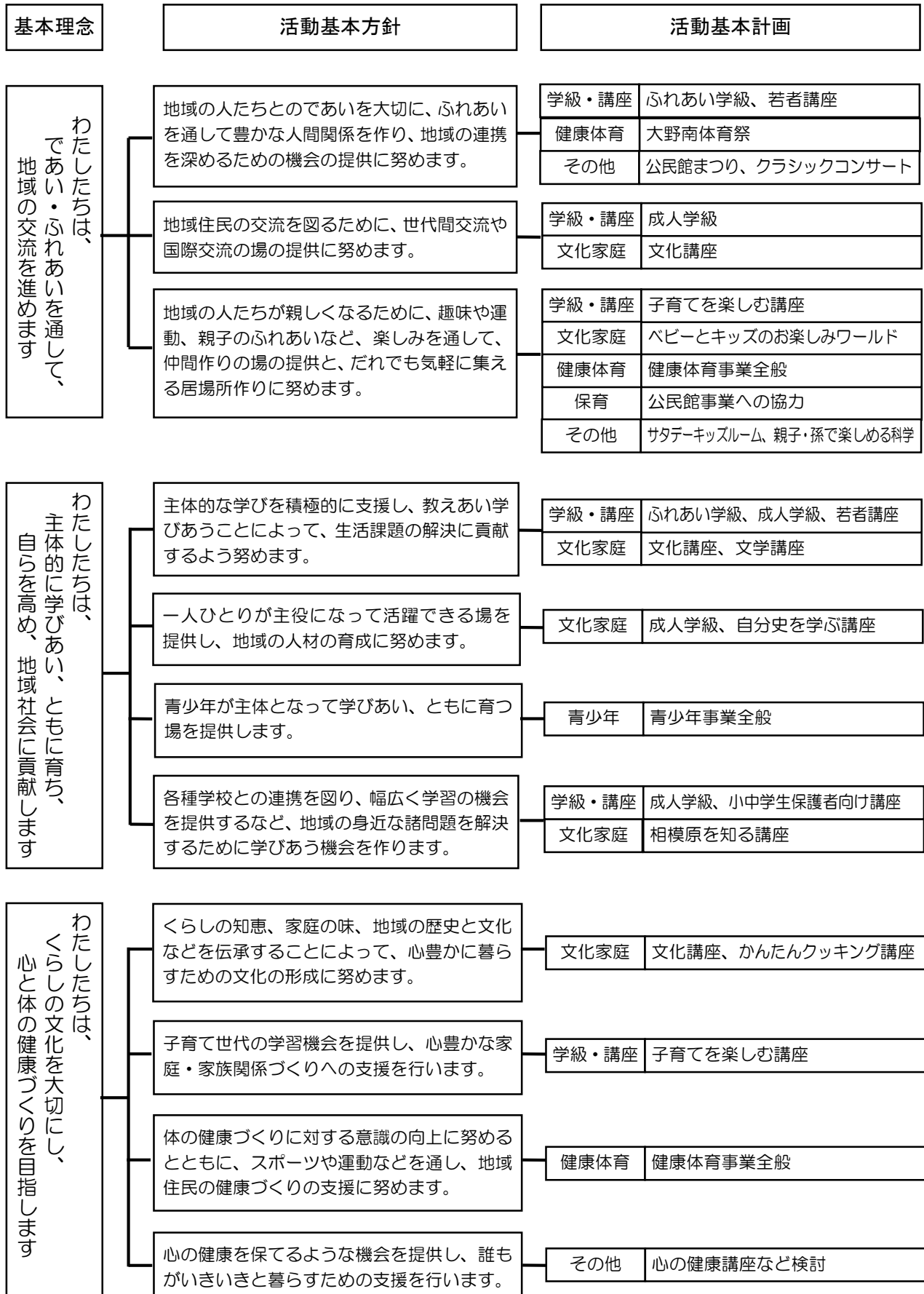
(2) 振興計画の評価・変更・見直しについて

振興計画の進捗状況の確認及び評価・変更・見直し等については、定期的に専門委員会及び評価委員会、運営協議会にて協議し検討していくこととします。

〔大野南公民館組織体制〕



〔大野南公民館振興計画の体系図〕



參 考 資 料

参考1 わたしが考える〇〇事業

各専門委員会等の事業について、「わたしが考える〇〇事業とは」と題して思いつくだけ付箋に書いてもらい分類したものです。

わたしが考える青少年事業

【中・高生事業】

- ・中学生、高校生も集えるような事業が欲しい（来るかどうかは？）
- ・中・高生にも事業に参加して欲しいが部活動や塾で忙しく参加は難しいかも知れない
- ・現状を見ると子どもが中心であると思われるが（小・中学生）高校生、大学生、社会人対象とした事業を計画してはどうか

【仕組】

- ・多くの子どもたちが参加したい事業の検討
- ・保護者も楽しめる事業を行う
- ・地域への情報伝達方法
- ・科学教室は相模原の公民館のさきがけ
- ・委員の意欲でテーマも興味も感じるが、外部講師ももっと活用した方がよい
- ・事業計画や実施において内容は充実しているが広報的に市民全体に情報が届いているか
- ・地域の子どもの参加促進
- ・小学生の企画には直ぐに定員が集まりキャンセル待ちもある
- ・長期休みや長期休み前の半日授業の日の午後などのイベントはどうか
- ・参加費を低価格に設定しているが親は公民館だから無料じゃないと思っている人もいた
- ・内容は面白く興味があるが開催日と予定が合わないことが多い
- ・地域住民が公民館事業を知ることが大切

【環境】

- ・今の子どもたちの状況はどうか実況はどうか実体を抑えることが必要ではないか？（例えば、携帯を日常持ち歩いている）

【学校以外の体験】

- ・学校で実施していない農業体験、農作業、ものづくり等
- ・自然体験教室で山、川、海のテーマで行う
- ・学校で行かない場所への社会見学を実施したい
- ・事前観察、自然の中で体験など自然と向き合う事業
- ・都市化された大野では味わえない体験ができる多自然体験教室
- ・学校では教えてくれないことを知れる
- ・バスに乗ってキッザニアとかよみうりランドにいきたい
- ・近年の体験型プログラムは人気！支持多い
- ・色々な子どもの事業があって親子での地域デビューができない

【交流】

- ・小学校5校間の交流の場になっている
- ・複数の学校の子どもたちが交流しあえる事業
- ・同一校の中の異学年交流になっている
- ・子供の上下関係が判断できる場所
- ・年代を超えたイベントがあってもよいと思う
- ・高学年、低学年の面倒見あいが見られる
- ・子どもたちが安心して集まれる

【学校】

- ・学校の中の異学年交流になっている
- ・子供の上下関係が判断できる場所
- ・年代を超えたイベントがあってもよいと思う
- ・高学年、低学年の面倒見あいが見られる
- ・子どもたちが安心して集まれる

【高齢者】

- ・高齢者学級と一緒に昔遊びを教える

【子どもが主体】

- ・大人の目を気にせず自由な発想を引き出したい
- ・子どもが自主的に工夫できるような取組（まつり）
- ・子どもを尊重（人権）するやり方をしてほしい

- ・人権教育（人の大切さ、いのちの大切さ）を学ぶ
- ・遊び用具を作り、遊び方を学ぶ

わたしが考える青少年事業の貢献

場 所

【仲間】

- ・様々な事業が行われ子どもたちが参加しているのは素晴らしい
- ・子どもたちの仲間づくり

【交流】

- ・公民館の理解と親近感が生まれる
- ・子どもと大人の交流、複数校の交流
- ・高齢者サロン・老人会で生かす

【体験】

- ・青少指の仕事は主に実体験や自分の考える事を計画/実施している、学校ではできない体験教育で内容が充実している
- ・ボラケンできる場所の提供

【心・場所】

- ・子どもたちの心の豊かさ育む場所
- ・子どもの興味を引き出す場所

わたしが考える健康・体育事業

【指導】

- ・希望、スクワットのやり方や歩行の姿勢など基本的で大切な健康づくりを学べる★
- ・思ってもみなかった基本の動きが学べる★
- ・オリンピックやパラリンピックの新しい競技の理解と実施
- ・街中ウォーク（例：鎌倉）
- ・チェアエクササイズのような自宅で一人でもできる体操の指導。例えば、タオルを使ってころばないようにする歩き方の指導
- ・スポーツの楽しさを知る
- ・春、夏休みを使ったファミリー体操

【仕組】

- ・健康づくりウォークとさわやかウォークの違いは市民からはわからないので一つの事業の方がよいのでは★
- ・高齢者や初心者向きハイキング★
- ・子ども達が進んで参加できるようにするにはどうすれば好きな時に自由に
- ・自治会が体育祭にでてこない。どうすれば出るの？
- ・ウォーキングを3段階に分ける（ファミリー向け、強健者向け、一般ウォーキング向け）★
- ・自治会対抗スポーツ。地域交流があまりない中、とてもよいことだと思う
- ・市民健康まつり。6月だけでなく、回数を増やして重点事業を盛り込む内容はどうでしょうか。（例 6月だったら、お口の健康教育と健康まつり）★

【PR】

- ・参加への呼びかけをもっと分かりやすくする
- ・体育事業について現在あまり知りません
- ・参加者の少ない事業もあるので地域のPRと見直しも必要★
- ・それぞれのイベントに対するPRが少ない→知る人ぞ知る事業になっているのでは？
- ・自治会、老人会、子ども会等に対し、事業をPRし、参加者を増やす努力が必要

【組織】

- ・年代相応の体操をする場が欲しい
- ・決まった日時に運動をするような場所が欲しい
- ・吹き矢事業をもっとやってください★
- ・朝のラジオ体操。あちこちの公園・広場でグループでしているが、公民館に朝くることがない★

- ・支援センター、社協など高齢者向けと競合している

【心の健康】

- ・心の健康については、とり残している★
- ・理解のための講座が必要★

【コミュニケーション】

- ・家族ぐるみでできるハイキング
- ・体を動かす楽しさを子どもにも広めたい
- ・年齢を問わず取組めるスポーツを普及
- ・市民健康まつりでは、子どもが知らない大人と関わることができる★

【高齢者参加】

- ・高齢者が地域で活動できる
- ・高齢者が喜んで多く参加できる事業を★

【仲間】

- ・一人ではできない運動を仲間と一緒に
- ・同好の人々の仲間づくり

【地元愛】

- ・子ども達に地元意識をつくる
- ・公民館以外の施設を使って地域を知る

【交流】

- ・子どもたちと卓球等で交流が持てるといい★
- ・ラジオ体操。年1回ではなく休みの期間を利用して地域（学校グラウンド）に集めて行える内容を入れたらどうか
- ・子供が小さい頃は夏休中公園に集合しラジオ体操をしスタンプを集めて参加賞をもらう事が楽しみでした。旭町は今もある
- ・青少年と高齢者が一緒に集える健康教室が欲しい★
- ・体育祭、地域の方々との交流の場として、また世代間の交流の場となっている
- ・年代をこえた交流・スポーツ大会を行う
- ・参加者を増やすとの交流をするため競技を行う（例：ターゲットボードゴルフ等個人）★
- ・同じ人がいつも参加していると仲間に入りにくい。公民館事業で感じるところです

【設備】

- ・公民館の体育施設、設備が不十分。やれることが限られる

【健康づくり】

- ・健康まつりの基礎体力測定や医師などによる健康講座・相談はとても良い★
- ・肉体的な健康もさることながら、精神的健康に主眼をおいたイベントを★
- ・その年に流行している病気の原因と予防を★ ・体の基本的な仕組みを知りたい★
- ・地区でのサロンなどで口の体操。テイスサービスなどでもしている
- ・公民館で体力測定会を実施（走力・心臓機能、筋力バランス、背筋力、握力）
- ・体育祭。住民の健康づくりと自治会の交流を目的に行うため参加自治会を増やす
- ・健康のための料理教室。添加物等時間をかけずに簡単にできること★
- ・食育に関する講座・料理教室等を開催しては
- ・ラジオ体操。だれでも気軽に身体を動かすことができる
- ・市民の健康度合いを計測する事業を定期で（例えば、体脂肪、骨密度、血圧等）

わたしが考える健康・体育事業の貢献

【交流(多世代)】

- ・ウォーキングなどは地域の人々が楽しく交流できる
- ・子どもから高齢者まで気軽に参加できるスポーツを広めて欲しい
- ・家族ハイキングは、いろいろな人たちに会えて普段とは異なる会話や体験ができる

【誰でも参加】

- ・気軽にどなたでも参加できるのを組み込んで欲しい
- ・誰もが参加できる体育祭
- ・各自に合った場で体を動かせる

【仲間・コミュニケーション】

- ・仲間づくりができる
- ・家が離れているので、普段は交流の機会がない人同志の交流ができる

【健康意識】

- ・さまざまな病気について、その原因と日常の注意を知りたい
- ・健康・体力に引き合せて意識が向上
- ・事業の効果。参加者が自分の健康を意識するきっかけとなる
- ・市民が元気に暮らす意識を育てる

【家族】

- ・ファミリー向け事業を増やしたい

【健康】

- ・運動に役立つ講座等
- ・子供たちの健康・体力等。交流の場
- ・健康まつりで黒河内病院のスタッフによる健康チェックに初めて参加しました。アドバイス良かったです
- ・足から老化すると言われますが、公民館で高齢者にお勧めの運動は？
- ・ストレスの解消
- ・市民の健康の度合を自ら定量的に把握する

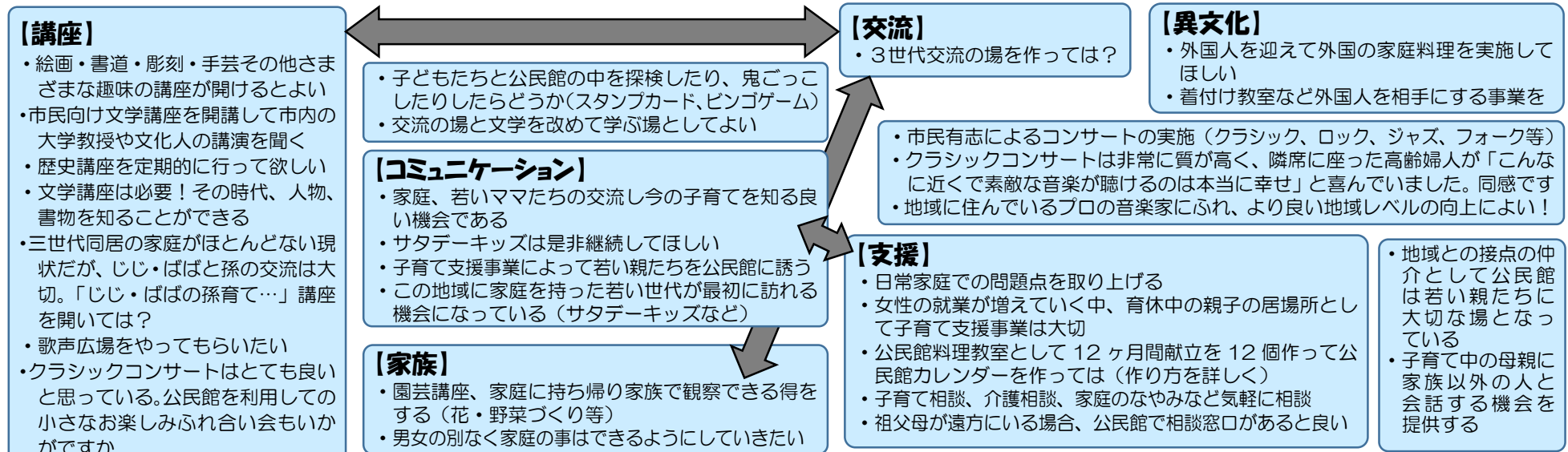
【仕組】

- ・各地域で行っている老人に対する催し（サロン等）を活用
- ・運動に関する体づくりができるが良い
- ・体育祭について、自治会対抗参加になっているが、地域の人が自由に参加できる競技内容があったらもっと盛り上がるのではないかと
- ・健康まつりは年1回ですが色々な方が参加します。年2回実施してもよいのでは？
- ・体育事業について、各事業自体の体系や関連性をもっと知らせてほしい

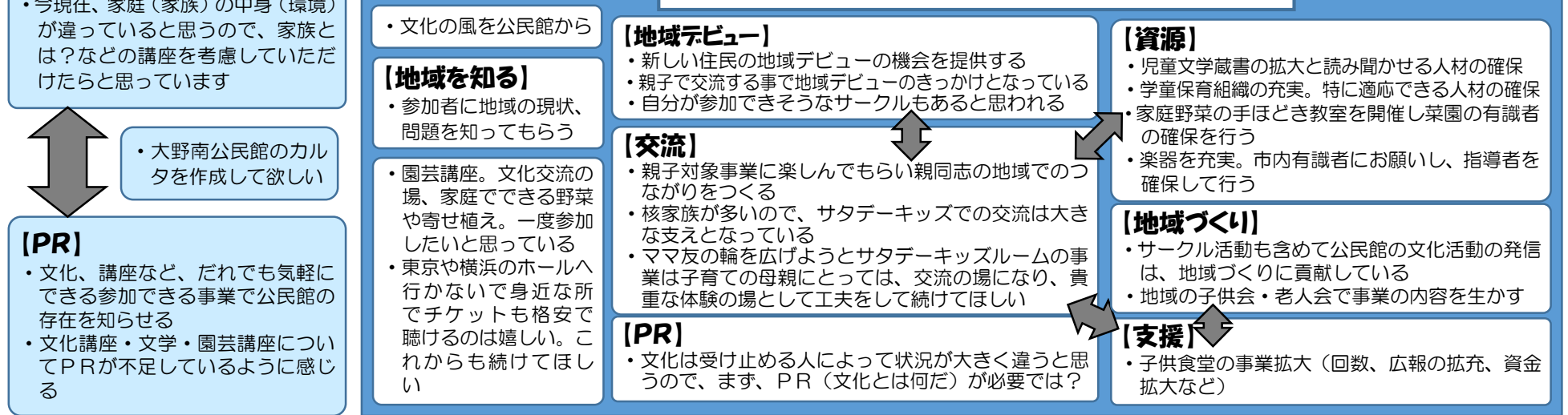
【スクラップ&ビルド】

- ・保健所機能が様々の事業がある中、公民館の健康事業は必要か？

わたしが考える文化家庭事業



わたしが考える文化家庭事業の貢献



わたしが考える学級

【交流】

- 管内の大学生の部活動を取り入れてください。特に演劇部活動等を
- 学級と同好会の違いがわからない。行政からの組織化支援は効果がある

【楽しむ】

- フリーで楽しむひととき講座、気軽に楽しめる講座

【地域の課題】

- 地域課題を認識することができる
- 地域の歴史、地域の現状などを学習できること
- 高齢者学級は陶芸等の物づくりも行ってはどうか
- 地域の情報を正しく学べる

【考える】

- 第1回検討委員会の資料の最初にある「公民館とは」を読みました。学級は生活課題、地域課題を考える大切な場です
- 講師を呼ぶことが多いので新しい知識、考えを得られる
- 自分を見直すキッカケとなる

【学ぶ】

- 参加者が主体的に学習にとりくみ、参加者同志が良く知り合える
- 講師の話聞いてグループでそれぞれについて話し合うことがあらためて身につくと良いと思う
- むずかしいことでも聞いて、少しずつ理解できるようになるとたのしい
- 高齢者学級、成人学級共に角度を変えた学習の場
- 学級に参加した経験で日常生活に大いに役立つことが多い
- ぼけ老人にならない為に頭を作ろう講座を企画してほしい
- 高齢者学級は非常によい。地域の歴史文化だけではなく、その時代の有名人を学ぶ
- 時事問題の役に立つ知識を学べる学級
- 他人の考えを知る良いチャンスである

【話し合える】

- 日頃疑問に思っている事を学べる。皆で話し合える場ができることが大変良いと思う
- 学級では互いに本音に近いところを話し合えたように感じる

• 高齢者学級、公民館まつり以外の学級参加の経験がないため、どんな学級が必要なのか意識がない ⇒ 高齢者学級は楽しいよ！多くの人に学級生に

あなたが考える学級の貢献

【学習成果】

- 大野南公民館の過去の学級から生まれた例として子育て情報マップの作成があった
- 地域活動を担ってくれる人材がでてくる

【仲間づくり】

- 継続学習ならでは、仲間づくりにつながる

【考える場】

- 地域の課題や生活環境の中で、問題視されている事業を話題にとりあげ参加者が考えたり行動する指針になっていると思われる参加者のコミュニケーションの場として大いに貢献していると思う
- 自分の住んでいるまちづくりを考える大切な場です
- 地域を考えるキッカケとなる

【交流】

- 同じ課題をもっている人々の集まりは社会にとって有効と思う
- 公民館まつりでふれあい学級を青少年委員会で合同で工作教室を開催しました。現在は別々な教室を開いています。こどもと高齢者が一緒に物を教える事も良いと思います

【実践】

- それぞれの学級生が地域で各々の立場で学習したことを実践する
- 子育て学級や高齢者学級は現状でも効果は顕在化していると思う

わたしが考えるその他の事業

【PR】

- ・大野南公民館まつり、公民館をPRする場でもある

【協力】

- ・公民館まつり、大野南公民館は、参加者の協力度が高い

【交流】

- ・懇談会、参加者が互いに話し合う場が減少。交流の時間がとれなくなった

【帰属意識】

- ・利用団体の帰属意識がうすれて来ている。まつりや大掃除が効力としてあるか
- ・大掃除、自分の使う施設をきれいにする気持ちは大切で、公民館ならではの事業である

【発表の場】

- ・年1回の発表の場として、まつりは大切にしたい。登録団体の参加に工夫が必要

【ルール】

- ・公民館利用者懇談会は、必要。貸館等のルール等を教える場所

- ・こども主体の事業がほしい
- ・大掃除は年2回やっている館もある。料理実習室とか
- ・「その他」が学級や講座との違いが不明確
- ・「その他」の事業として分類する事は、分類しづらい項目を入れる事業でよい
- ・公民館まつり、利用者懇談会の参加がH30年は少なくなったのはなぜでしょう。懇談会については全サークルに（利用者）アンケート形式にでもして意見をだしてもらってはどうか
- ・参加者が自分の発表の場と考えているので他者の発表をじっくりと見ることが不足
- ・大掃除、暮れの忙しいときではなく、夏とか春とか年何回か予定したらどうか
- ・公民館まつりにさそっても、なかなか参加できない。大変ですができるところをしていきたい
- ・大掃除は、利用サークルの全部が出席すべき
- ・公民館の各事業、周知がゆきとどいていない場合がある
- ・公民館まつりは楽しそう。参加してみたい

わたしが考えるその他の事業の貢献

- ・子供がもっと公民館にきてくれる環境づくり
- ・公民館まつり文化の部、おためしで体験したい事業もありますが、自分の担当があるので、パトロール中にチラッと見るだけです
- ・公民館まつり、無料で工作教室を実施ことも対象ですが、高齢者もお孫さんに教えたいと参加者が増えてます
- ・大掃除は、参加したことがない。今年は参加出来る時間をつくりたい
- ・市民主体で運営する民主的な活動を学ぶ場で、沢山あります

参考2 評価委員会による事業評価（3年間）

（1）令和元年度

事業名	実施日	評価と今後の課題等
青少年委員会事業 セミの羽化観察会	8月3日(土)	募集人数 20組 / 参加人数 22組・63人 セミの羽化のプロセスの説明と実物を見ることができ、かつ親子で楽しめるたいへん良い企画である。会場の相模原麻溝公園での受付や誘導など、スタッフの案内が的確で効率の良い運営ができていた。ただし、受付場所から実施場所までの距離があり、参加者が迷ってしまう姿も見られたため、案内板の設置や案内者の配置をすることで、よりスムーズに進行できると思われる。
健康体育委員会事業 さわやかウォーク	11月2日(土)	募集人数 60人 / 参加人数 26人 自然の中でのウォーキングで健康増進をし、親睦を図るという点は素晴らしく評価できる。委員が中心となって様々な配慮をしており、大変そうなる方へのフォローも素晴らしい。参加者がやや少なかったが、公民館だよりを見ない世代への周知方法の検討が必要と思われる。
成人学級 大野南仲間カレッジ	10月16日(水) ～ 12月18日(水) 【全10回】	募集人数 30人 / 参加人数 延78人 社会問題や課題となっていることを取り上げており良い企画である。各回それぞれが大きなテーマであり、講義・話し合いの時間が足りないことと、参加者が少ないことが課題である。テーマの絞り込みや周知方法、参加者が得た知識を地域へ発信できたら良いと思う。

（2）平成30年度

事業名	実施日	評価と今後の課題等
文化家庭委員会事業 食文化を通じた 国際交流 ～ベトナムの文化 と料理～	5月15日(火) ～ 5月29日(火) 【全3回】	募集人数 16人 / 参加延べ人数 43人 これまで外国人との交流事業がなかったことから、振興計画の活動基本方針に位置付け、今回初めて国際交流事業として実施できた。地域に在住のベトナムの方を講師に招き、ベトナムの文化や料理、風習などについて知ることができたほか、ベトナムのお茶を飲みながら楽しく講師と交流できたことは大きな成果である。
健康体育委員会事業 市民健康まつり	6月3日(日)	募集人数 一人 / 参加人数 111人 運営面においてはスムーズに行うことができたが、参加者が年々減少してきている。事業のねらいにある「スポーツや体づくりに関心、地域交流を通して健康づくりの和を広げ…」をもとに、事業内容の見直し（親子で参加できるもの、地域交流ができるもの、測定結果や賞状を手渡すなど）、周知方法の見直しが必要である。

事業名	実施日	評価と今後の課題等
青少年委員会事業 セミの羽化観察会	8月4日(土)	募集人数 20組 / 参加人数 46人 セミの羽化観察を通して、親子で同じ体験・感動を共有できたことは参加者にたいへん好評であった。また、子どもたちは生命の不思議や尊さ、自然への関心が深まっただけでなく、親子で同じ時間を過ごし、同じ体験ができたことで家族の絆も深まったと思われる。
青少年委員会事業 こども自然体験教室	8月20日(月)	募集人数 25人 / 参加人数 10人 猛暑の影響もあり、参加者が10名と少なかったことが残念であった。山里の大自然の中で木登りやターザンごっこ、こおろぎ取りなど、街中では体験できないことを、子どもたちの豊かな発想なりに存分に楽しんでもらうことができ、体験教室としてとても良い内容であった。
子育てを楽しむ講座 ～Ohana～	9月6日(木) ～ 10月25日(木) 【全8回】	募集人数 30組 / 参加延べ人数 349人 育児中の母親たちが、同じ問題を抱える仲間と講座で学んだり、子どもを保育委員に預けて料理や製作などを行い、リフレッシュできる機会を作っていることはとてもいいと思う。本講座は毎週木曜日の開催で定着してきたが、今回は実行委員の提案で父親にも参加してもらえるように、救急・救命の回は日曜日に実施し、多くの父親に参加してもらえたことは大きな成果である。
文化家庭委員会事業 文化講座Ⅱ 「相模大野の変貌」	10月21日(日) ～ 11月5日(日) 【全3回】	募集人数 50人 / 参加延べ人数 114人 自分たちが住む街の歴史を知ること、相模大野の今、相模大野の未来を考える一助になったと思う。2日目に、相模女子大学や相模大野中央公園など、相模大野の街を実際に歩きながら講師に解説してもらったことはとても有意義であった。自分たちの住んでいる地域を知り、参加者それぞれがどのように捉えたのか、これからの相模大野は…など、事業がつながっていくことを願っている。

(3) 平成29年度

事業名	実施日	評価と今後の課題等
文学講座 「源氏物語」の世界	9月2日(土) ～ 9月9日(土) 【全3回】	募集人数 50人 / 参加延べ人数 133人 全体像をつかめるように「源氏物語」の第1部から第3部に分けて解説したことや、講師の選定も良く、ユーモアのあるエピソードを交えながらの講義に、参加者のアンケート結果からも満足度が高かったことが伺える。また、講座終了後にサークル「源氏の会」が発足されたことは大きな成果である。

事業名	実施日	評価と今後の課題等
成人学級 大野南仲間カレッジ 「地域を結ぶ 思いやり」	10月17日(火) ～ 12月19日(火) 【全10回】	<u>募集人数 30人 / 参加延べ人数 147人</u> 「それぞれの生き方・考え方を認め合い、地域で生きる自分に何ができるか考える」をテーマに、様々な分野の講師の講義をもとに、グループで話し合いの時間を多くとったことが良かった。また、偶然ではあるが、公民館見学にきた相模台小学校の2年生に学級の様子を見てもらったり、職場体験に訪れた谷口台小学校の6年生と一緒に話し合いの輪に入ってもらったことはとても良かった。
文化講座 「パステル模写で 感じる巨匠の息吹」	1月21日(日) ～ 1月28日(日) 【全3回】	<u>募集人数 25人 / 参加延べ人数 56人</u> パステル画が初めての参加者が多く、注目度は高かったと思われる。女子美術大学の美術館見学は地域の活性化に大いに役立ったが、退職教員記念展の作品点数が少なかったことが残念である。また、学生食堂での食事参加者には好評であった。
若者講座「眠活」	2月10日(土) ～ 2月24日(土) 【全3回】	<u>募集人数 30人 / 参加延べ人数 20人</u> 実行委員の大学生が中心となって、企画から運営までしっかりとできていた。若者の睡眠不足をテーマとして、睡眠の大切さやアロマの活用、ストレッチ体操、食事と栄養を学ぶという内容はとても良かったと思う反面、参加者が非常に少なかったことが残念である。周知の方法や講座の実施時期の見直しが必要と思われる。
青少年委員会事業 おもしろ科学教室 「煮干しの解剖」	2月17日(土)	<u>募集人数 40人 / 参加人数 23人</u> 参加した子どもたちが熱心に取り組んでいた姿が印象的で、企画の良さが感じられた。保護者の参加も6名あり、大人でも十分に楽しめる企画であった。魚だけでなく、様々な生き物に興味を持ってくれるようになれば、貢献度はさらに高くなるように思われる。アンケートだけでなく、疑問や質問を直接聞く機会があってもいいと思う。

参考3 大野南地区の変化と公民館

この10年間で、大野南地区ではどのような変化（歴史・文化・自然・住環境・住民意識など）があったか、また、その変化に住民が対応するために、公民館としてどのような活動があったか、どのような活動をすべきだったかについて考えました。

(1) この10年間の大野南地区での変化 (★) …話し合った項目

街並みの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・西側再開発事業により街が発展した (★) ・個人商店の閉店が増え、商店街が消滅している ・空き家・空き地が増えた ・伊勢丹が閉店し、人の動線が変わった (★) ・大型スーパーが増えてきた ・個人営業の物販店が増えてきた ・道路が整備されてきている ・緑や林（自然）が減少し、畑などが住宅地になった ・家の区画が小さくなった ・ロビーファイブなどスーパー・商店の入替えが増えた ・床屋がなくなりカット屋が増えた ・地域全体に住宅改築（二世帯も含む）が目立つ (★) ・大野銀座商店街にあった商店がポーノや駅周辺に移転した ・街全体の元気が無くなってきた ・相模大野駅北口と南口が分断されている
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・谷口台小の児童数が増加して学校が窮屈 (★) ・県立相模大野高校が中等教育学校になり、認定こども園ができた ・子どもの遊んでいる姿が見られなくなった (★) ・街に若者が増えた ・塾（お稽古）が増えた ・保育所が増えてきた
高齢者・外国人	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の増加、高齢化が進んできた (★) ・外国人、外国人ファミリーが増加した (★) ・高齢者支援センターの活動が増えてきた ・カレー（エスニック）料理店が増えた
近所付き合い	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の場が少なくなった ・駅の近くにマンションが増加した (★) ・近所の付き合い、人の繋がりが希薄になった (★) ・自治会加入率が下がった ・家族葬が増えた
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館が有料化となった ・館区外の利用者が増加した ・ひばり放送の行方不明者が少なくなった ・母親の就業が増えてきた ・小田急がスピード化された ・災害が増えた ・野良犬・野良猫を最近見なくなった

(2) 大野南地区の変化による影響と公民館活動

① 街並みの変化

項目	その変化は大野南地区にどのような影響（プラス・マイナス）を与えたか	その影響に住民が対応するために、どのような公民館活動があったか。またはどのような活動をすべきだったか。
街が再開発により発展した	<ul style="list-style-type: none"> ・相模大野の駅がきれいになった ・公園が増えて整備された ・駅の近くに大型店があり、コリドーへの人通りが少なくなった ・個人商店の経営不振を招いた 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座で街の変化を学んだ ・地元での買い物を心掛けた ●現状を知ってもらうための講座で発信する ●商店街をPRし、ともに考える ●地域の文化向上のため、文化活動（クラシックコンサート等）を引き続き行う
伊勢丹が閉店した	<ul style="list-style-type: none"> ・駐輪場難民が増えた ・相模大野駅北口が寂しくなった ・相模大野のシンボルがなくなった ・有名店（とらや）がなくなった ・グリーンホールに行きにくくなった ・スーパーが高級食材を置くようになった ・お祝い事がひとまとめにできなくなった ・高齢者は配達してくれる商店へ、若い人はネットショッピングに移行した ・個人商店ならではの人間関係の構築ができなくなった ・丁寧なサービスが低下した ・人の流れが変わった ・コリドーに人がいなくなり、商店街が寂しくなった ・コリドーの店が夜早く閉店し、防犯上心配 ・百貨店商品を身近で買えなくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・百貨店のために買い支えることは困難 ・行政がもっと関わられたはず ・協働の取り組みができたはず ・まんどう祭りの時は伊勢丹は協力していたが、段々協力してもらえなくなり終わってしまった ●地域のつながりが薄れているので補って欲しい ●伊勢丹閉店後の姿について、市民の意見を聞いてもらえるようにする ●意見を言える場所・勉強できる場所として公民館をアピールする
地域全体に住宅改築が目立つ	<ul style="list-style-type: none"> ・空き地が増えてきた ・緑が少なくなった（緑道の太い木が切られた） ・若い世代が増えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会の委員から声掛けをして、公民館の情報を発信する

② 子ども

項目	その変化は大野南地区にどのような影響（プラス・マイナス）を与えたか	その影響に住民が対応するために、どのような公民館活動があったか。またはどのような活動をすべきだったか。
子どもが増えて学校が窮屈	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、教室数は足りないが、先生は増えている ・鶴の台小学校以外は増えている ・子ども会の活動は活発になったが、自治会員数は減った ・海外の子どもが増えた ・認定保育園（民間保育）が増えた ・無認可保育園等は増えたが、園庭がないので公園を使っている ・高学歴のママが多く、学校に任せている人がいる一方で、頑張っているママもいる ・親は働いていて昼間いないが、子どもは塾等で安心 ・子どものあそび場所（居場所）が減った ・ボール遊びは禁止など、遊ぶ場所がないため、外で遊ぶ子どもがいない ・塾に通う子どもが増えた 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育てを楽しむ講座」の受講者が増加した ・公民館が子どもを見る日（水曜日など） ・こども料理教室の実施 ●外国人の子どもたちと一緒に遊ぶ機会を作る ●文化家庭委員会事業の地域に住む外国人を講師とした「インドカレー」のような事業を増やす
子どもの遊んでる姿が見られなくなった	<ul style="list-style-type: none"> ・地域差がある ・公園でもゲームをしている ・マンションではプレイルームがある ・外国では教会が居場所、昔は神社やお寺が居場所のサポート ・市街地では木登りなどができない（子どもの体力低下） 	<ul style="list-style-type: none"> ●居場所の提供(子どもにとって身近な公民館でありたい) ●自然体験教室は人数が集まらないので、近場で遊ぶ場所を見つけられないか
谷口台小の児童数が増加した	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが増えたことでにぎわい・活気も増えた ・見守り活動の場が増えた ・子どもの数が増えたわりに公民館活動に参加する子どもが少ない ・児童数は多いが、公民館の前を通る子どもがほとんどいない ・子どもたちの遊べる場所が減っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で公民館事業のチラシを配布するようにした ●もっと多くの子どもたちが参加する工夫が必要 ●世帯数の動向を調査すべきである ●若い世帯が増えたことで子どもが増加したが、公民館にどう誘導するかが課題 ●事業の企画力・PR力をアップする必要がある

③ 高齢者・外国人

項目	その変化は大野南地区にどのような影響（プラス・マイナス）を与えたか	その影響に住民が対応するために、どのような公民館活動があったか。またはどのような活動をすべきだったか。
高齢者の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばり放送の行方不明者が少なくなった気がする ・デイサービスが充実 ・健康指向が強い。元気だと外、ダメだと家にいる ・介護予防などが盛んに行われている ・コミュニケーションが取りづらい ・病院が混んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者学級、成人学級、各種講座の充実 ・高齢者学級がマンネリ化している ・60代は仕事をしていて声をかけにくい ・友だちを作ることは大切 ●高齢者学級を熟年学級にする ●百歳体操の推進 ●健康や体操などに特化してほしい ●公民館に来てもらえれば何かできる ●男性だけの高齢者学級を
外国人の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・米軍基地があるから ・夫は日本語がOKだが、妻はダメ ・就労で来てアパートに住んでいる ・仲間で公園に来るので脅威に感じる ・工事現場で働いている人は多い ・コミュニケーションが取りにくい ・日本の文化（神社）に協力する外国人もいる ・歩いていると、東南アジア系の人が目につくようになった ・親は日本語を話せるが、子どもは日本語を話せない子がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人は外国人に対して遠慮がある ・外国人は日本人と交流したがっている ●公民館がつなげる ●英語で料理を学ぶなど、英会話をベースとした活動をする ●仲良くなる機会を作る ●外国人が地域に溶け込めるような事業を ●子どもをきっかけに、パーティーなどを通して外国人との交流を図る ●バリアオープンにする

④ 近所付き合い

項目	その変化は大野南地区にどのような影響（プラス・マイナス）を与えたか	その影響に住民が対応するために、どのような公民館活動があったか。またはどのような活動をすべきだったか。
マンションの増加	<ul style="list-style-type: none"> ・街に若者が増えている ・若い人が増え、子どもが多くなった ・人付き合いが少なくなった ・インドの方が増えた ・マンション自治会が減った ・ゴミのポイ捨てが増えた ・駅に近いので、高齢者も駅の回りに住む ・家を売り、老後資金として出て行く ・プライバシー重視 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者講座がある ●世代を超えた交流の場が欲しい ●公民館を知らない人が多いので、公民館に呼び込むPRが必要 ●地域とのつながりをつくる ●事業のマンネリ化を避け、地域の有名人などを講師とした事業で引き付ける ●自治会未加入マンション等にも館報などのお知らせができるといい
近所の付き合いが希薄になった	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の付き合いが希薄になった ・自治会の役員の担い手がいない ・空家が増えた ・自治会入会率が減った ・となり近所で見守り（郵便物が溜まってないか） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭は若者（小中学生）を含め楽しくできた ・ひばり食堂が良かった ・公民館が交流の場として一役かっている ●特技を持っている人を引き出す場所 ●防災講座を開いてほしい ●外に出てこない人に伝えたい

参考4 公民館への期待（皆さんからの声）

検討委員会に参加された方、参加できなかった方々に、「今後の公民館活動に何を（どんなことを）期待しますか？」というアンケートを自由記述で実施しました。ご回答いただきました皆さまの声は以下のとおりです。

（1）若者でにぎわう公民館

地域のあらゆる世代に出合いや学習の場を提供する役目が公民館ですが、現状としては必然的に高齢者と子育て世代が主に活動しているようです。課題は多いでしょうが、やはりこれからの社会を担う若者たちに主に10代後半から30代の若者を対象にした事業を増やした方が良いのではないのでしょうか？ もちろんどの公民館もこの世代の人集めに苦労しているはずですが、人を集めるにはいうまでもなくPRが大事です。特に“口コミ”の力は大きいと思います。これまでもHPやSNSなどの利用、各事業のチラシを官公署等に設置されてきていますが、若者の通行や出入りの多い場所として、特段の要請として相模大野駅構内のリーフレット置きに公民館事業のPRチラシや館報を置かせていただけないものでしょうか？（市広報の設置はあるようですが）また、館区内のカフェや喫茶店に設置の協力依頼をしてみてもと思います。場合によっては、何気なくチラシを手にした若者が、ある講座に参加した後、友人たちに「小学校以来に公民館に行った事がなかったけど、ちょっと興味があったからこの〇〇講座に参加してみたけど、（1回のみ参加も可とあったから）なかなかためになったし楽しかったよ。他に〇〇教室とか若者講座なんかもやっているみたいだし、ほとんどが無料で受ける事ができるから“ものは試し”今度タイミングがあったら一緒に参加してみない？」などと情報の輪が広がっていく事もあると思います。

また、公民館事業に協力してもらえるように講座を受けた若者がいたら「これから公民館で若者を対象にしたものを検討しているんだけど、是非若者目線の意見やアイデアを聞いてみたいので時間があつたときにお友達を誘ってきて下さいね。茶話会をしましょう！都合のよい時に連絡して下さい。いつでもお待ちしております」というような公民館職員とのコミュニケーションや関係性を築くと良いと思います。公民館事業にご協力いただけるように、プロではないけれど地域で特技をお持ちの方や個人で熱心に研究を重ねていらっしゃる方などを住民に紹介してもらおう「チョッピー先生紹介ポスト」みたいなものを置いてみても良いのではないのでしょうか。

（2）あらゆる世代に利用される公民館

幼児・小学生・中学生・高校生・大学生・その他学生・働いている人（60代までの方々）・高齢者（70歳以上の方々）が集まれる場所としての公民館になってほしい。

現状では「ここに公民館があるよ！」というPRが不足していると感じているので、まずは公民館の場所、その役割等を地域の人々に理解させることから始めたい。

大野南地区には新しい住民がどんどん増えていっていると感じているのでPRは是非やりたい。

従来から多くの計画があり実行されているが、住民に行き渡っていないと感じているので「いかに住民に知らしめるか」に絞って行動したい。「公民館は皆さんのもの！」「楽しいから公民館に来て！」ということを徹底して知らせる工夫を考える。

(3) フリースペースの空間を

公民館利用者の多くは公民館を使って（借りて）自分（達）の活動ができればよいと考えてると思います。そのような立場から考えると有料化になったとはいえ、公民館はとても都合のよい公共施設と言えます。多くの利用者にとって、公民館は余暇を利用した趣味の活動としての場所であり、興味のあることを勉強する場所です。それによって利用者の豊かな心をつくり、健康に役に立っていると考えます。結果的に、それは公民館の目的である地域交流、社会貢献、健康づくりに結びついています。公民館はたくさんの人たちに幸せを提供している場所と言えます。今以上に利用しやすい公民館となるために、フリースペースとなる空間があると良いと思います。2ヶ月前に使用する部屋の予約制では公民館への足は限定されてしまいます。地域内の友だちが立ち寄っておしゃべりや打ち合わせが出来るフリーな場所を提供できれば良いと思います。サークルが活動する前後にお茶やお菓子を食べる（昼は弁当）所になっても良いと思います。将来、地域の人たちが「大野南公民館で会いましょう！」となるように出来れば素晴らしいと思います。

(4) 公民館の積極的なPRを

公民館として物理的な独立を望みます。独自の建物をもつのが理想的ですが、当面無理だと思います。であれば、ここが「大野南公民館」だということを視覚的に分かるようなことは出来ないでしょうか。基本2F部分だけ色を変えて窓ガラスに「大野南公民館」というサインを出すなどの大胆なアピールが必要かと思います。

予約なしで誰でも使用できるフリーの場所が必要かと思います。事務所横にテーブルと椅子がありますが、狭いし、気軽に使用できません。現状、物理的にその空間を確保する事が出来れば、今、資料室にある本などをそのスペースに置いていただき、簡単に手に取れるようになれば、特に子どもたちは活用してくれるのではないのでしょうか。

担当職員スタッフを短期間で交代させないで欲しい。振興計画で計画している年数くらいは同じ担当者で進めたいと思います。

公民館運営側の方は公民館をどうしたいと考えているのでしょうか。ボトムアップ（下からの提案）も大事かと思いますが、トップダウン（上からの指示）も必要なのではないのでしょうか。

(5) 団体・サークルの横のつながりを

一般住民は公民館というものが何をしている所か分からないのではないのでしょうか。実際私も最近（5年ほど前）になるまで公民館がどういった活動をしている所なのか知りませんでしたし、興味も持ちませんでした。もし有意義な事をやっているのであれば、その活動内容をもっとアピールするべきかと思います。

部屋の使用料は無料にしてもらいたい。

サークル間のコミュニケーション／接点／交流が取れるような事が出来ればいいと思います。具体的な例は思いつきませんが、公民館はサークルにただ部屋を貸すということだけではなく、サークル間でのつながりができるようなイベント？があれば、さらに人の輪が広がり、公民館としての存在意義も高まるのではないのでしょうか。

(6) 時代とともに変化する公民館を

ずっと以前の公民館の事を走馬灯の如く思い出しています。これも歴代及び現館長様はじめ、職員の方々のおかげで立派な公民館として私共がいろいろな活動が出来る事にとっても感謝しています。時代と共に変化する状況にあわせ、今後も素晴らしい地域（地区）の公民館として、益々発展することに期待致します。これからも宜しくお願い致します。

(7) 団体・サークル活動の後押しを

各々の事業に携わる役員の方々、ご苦労様です。色々計画を立ててもどういう中身でやっているのか地域の方々のお知らせがイマイチの様な気がします。事業に参加された方たちの次回に向けての案が出てくると良いと思う。

公民館まつりでは、芸能・音楽部門と発表するのですが、公民館を利用するサークルの練習の場だけでなく、自分のサークルの発表会の形をとり、仲間知人に呼びかけて公民館でも後押ししてお知らせ等にして下さると人が少しでも集まるかとも思います。

(8) 市民が参加しやすい事業づくりを

振興計画に基づき、毎年事業計画を見直しつつ検討を行い、市民が参加しやすく、また、ためになるよう行事を行うようにする。各活動が地域住民に役立つようになれば良いと思う。「館報」を見て読んで、公民館の良さ・楽しさを感じる館報にしたら良いと思う。

(9) 公民館に熟年男性を集めよう

どうしたら熟年男性が集まるか。自治会の協力を得てアンケート調査をする。

(例) 公民館で何を学びたいか？ 芸術：陶芸・絵画・版画等、趣味：盆栽・料理等、スポーツ：卓球・ウォーキング等

(10) 子どもたちの活動が主体的にできる場を

「子どもが主体的に活動できる」、「子どもの目を通して地域の現状を知り、自分たちにできることは？」を長期的（2年くらい）事業として、『地域発見プロジェクト』と称して活動する機会を。①募集（男女は問わず、4・5年生を中心に）、②地域の経験者や協力を得て「農業体験」、③子どもまつり（他地域では多く実施されているが、おばけ屋敷など。体験発表や参加者に自分たちが体験したことを体験してもらうなど、プログラムの工夫が必要）、④地域の現状から「できそうなこと」への挑戦など。

(11) にぎやかな公民館づくりを

模擬店や朝市のように、定例で気軽に集まれるようなところになってくれると良いと思います。町田市役所では、定例で模擬店などを開催しており、特に高齢者などが多く集まっています。工夫は必要だと思います。また、特定の人だけではなく、ちょっと行ってみようかなと思えるような、公民館の中を大道芸や手品、パフォーマンスなど、にぎやかな楽しいことがあると良いと思う。

大野南公民館振興計画改定のあゆみ

■ 大野南公民館振興計画検討委員会委員（50音順・敬称略）

阿久津 明也（運営協議会）	芹澤 良治（健康体育委員会）
坏 英一（青少年委員会）	田中 美奈子（運営協議会）
坏 加代子（青少年委員会）	登坂 和範（青少年委員会）
朝枝 美恵子（青少年委員会）	長池 慶子（運営協議会）
阿部 京子（上鶴間2）	長野 アイ子（旭町）
阿部 義宏（運営協議会）	平澤 哲周（運営協議会）
安藤 真人（健康体育委員会）	藤井 町子（健康体育委員会）
石川 尚美（健康体育委員会）	宮下 悦子（青少年委員会）
伊藤 明（健康体育委員会）	村田 キク江（相模大野5）
伊藤 時彦（運営協議会）	渡辺 哲男（青少年委員会）
岡山 佐和子（健康体育委員会）	
岡山 風花（豊町）	中村 洋子（館長）
小野田 彰吾（健康体育委員会）	今野 裕之（館長代理）
格地 悦子（運営協議会）	西山 正徳（職員）
片山 昇（健康体育委員会）	竹林 加奈子（職員）
里見 やす枝（保育委員会）	山崎 誠（職員）
関口 潔（運営協議会）	

■ 振興計画検討委員会

- 第1回 令和元年7月13日(土) オリエンテーション、公民館活動の現状について
- 第2回 令和元年8月31日(土) 公民館活動の現状について
- 第3回 令和元年10月12日(土) ⇒台風のため中止
- 第4回 令和元年11月16日(土) 公民館活動の現状から見えてきた課題・方向性について、大野南地区の変化（歴史・文化・自然・住環境・住民意識など）について
- 第5回 令和元年12月21日(土) 公民館のこれからを考える、基本理念と活動基本計画について
- 第6回 令和2年1月11日(土) 公民館活動の具体化計画について
- 第7回 令和2年1月28日(火) 今後5年間で実施する事業について
- 第8回 令和2年2月15日(土) 振興計画改定(素案)について

検討委員のほか、運営協議会委員、各専門委員会委員、地域の方々から貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。

第2次 大野南公民館振興計画

～ であい ふれあい 学びあい ～
(活動基本計画 令和2～6年度)

編集・発行 相模原市立大野南公民館
〒252-5277
相模原市南区相模大野5-31-1
電話 042-749-2121
FAX 042-749-4795
ホームページ



<http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/onominami-k/>

令和2年3月